



# ハイチ・セントルシア Haiti St.Lucia 救援プラン&プロジェクト Revival Plan & Project

## ハイチ大地震から一年

一年たっても復興が思うように進まない厳しい現状が2011年1月11日の毎日新聞朝刊に掲載されました。

### ○テント生活が続く80万人

テント村の定着化を避けるため政府は食料配給をストップ。しかし住民には行き場も仕事もないのが現状。NGOが食料を届けても争奪戦になってしまう。

### ○コレラの蔓延(2,3年は続く?)

死者3,500人以上、感染者は17万人に達しようとしている。

### ○6割の国民は読み書きができない

広報資料が読まれず根拠のないうわさに影響される。国連の部隊がコレラの感染源という話も。

### ○大統領選挙(2010年11月)での政府の不正

暴動が起きかねない状況にNGOも復興プロジェクトを延期

### ○人口の8割が一日2ドル以下で暮らす中南米でも最貧国

貧しさゆえに犯罪も多い  
○独裁政権とクーデターが繰り返され国際的信用が低い  
過去の援助金の使途が不透明なこともあり国際社会からの援助金が当初表明されたものの6割程度にとどまる。

様々な状況が重なり合い、国連やアメリカが中心に援助が行われてきたがうまくいっていないのが現状だ。

(国際社会から既に1000億円以上が拠出されている。)

このプロジェクトは、様々な問題を払拭し、

被災地の人々に希望を与える活動を同じカリブの島国セントルシアから発信するものです。

## 81万人まだテント

**ハイチ地震1年**

ハイチの首都ポルト・フランス周辺を襲い、死者約30万人を出した大地震(マグニチュード7.0)から1年がたつ。しかし、復興は遅々として進まず、いまだに約81万人がテント暮らし。食料配給も滞り、コレラが蔓延している。昨年10月に発生したコレラの蔓延が、復興作業を妨げている。陸上自衛隊は復興支援活動の一環として、被災地に派遣されているが、活動内容は主に食料の配布と、コレラの予防活動。だが、政府は「コレラは自然発生した病気」と主張し、自衛隊の活動を制限している。また、政府は「コレラは自然発生した病気」と主張し、自衛隊の活動を制限している。また、政府は「コレラは自然発生した病気」と主張し、自衛隊の活動を制限している。

### 出て行く先も金も職もない

「ハイチの復興は遅々として進まず、いまだに約81万人がテント暮らし。食料配給も滞り、コレラが蔓延している。昨年10月に発生したコレラの蔓延が、復興作業を妨げている。陸上自衛隊は復興支援活動の一環として、被災地に派遣されているが、活動内容は主に食料の配布と、コレラの予防活動。だが、政府は「コレラは自然発生した病気」と主張し、自衛隊の活動を制限している。また、政府は「コレラは自然発生した病気」と主張し、自衛隊の活動を制限している。また、政府は「コレラは自然発生した病気」と主張し、自衛隊の活動を制限している。」

**続く飢えとコレラ**

「ハイチの復興は遅々として進まず、いまだに約81万人がテント暮らし。食料配給も滞り、コレラが蔓延している。昨年10月に発生したコレラの蔓延が、復興作業を妨げている。陸上自衛隊は復興支援活動の一環として、被災地に派遣されているが、活動内容は主に食料の配布と、コレラの予防活動。だが、政府は「コレラは自然発生した病気」と主張し、自衛隊の活動を制限している。また、政府は「コレラは自然発生した病気」と主張し、自衛隊の活動を制限している。また、政府は「コレラは自然発生した病気」と主張し、自衛隊の活動を制限している。」

「ハイチの復興は遅々として進まず、いまだに約81万人がテント暮らし。食料配給も滞り、コレラが蔓延している。昨年10月に発生したコレラの蔓延が、復興作業を妨げている。陸上自衛隊は復興支援活動の一環として、被災地に派遣されているが、活動内容は主に食料の配布と、コレラの予防活動。だが、政府は「コレラは自然発生した病気」と主張し、自衛隊の活動を制限している。また、政府は「コレラは自然発生した病気」と主張し、自衛隊の活動を制限している。また、政府は「コレラは自然発生した病気」と主張し、自衛隊の活動を制限している。」

2011年  
1月11日  
毎日新聞  
朝刊



## なぜセントルシアなのでしょうか？

もちろん当団体で以前から支援してきたこともあります。いくつかの理由があります。セントルシアも貧しい国ですので、多額の援助金を出すようなことは出来ませんが被災した人々を勇気付けることはできます。

①同じカリブの島国で、パトア語を話す同じ民族である

②世界一のジャズフェスティバルが行われる音楽の国

(ジャズはもともと黒人霊歌から端を発する)

2010年、ハイチ地震の後にセントルシアを訪れた際、

通訳の派遣 音楽を通じた犠牲者の慰霊と被災者を応援する活動を政府に提案

⇒好意的に受け止められたもののすぐに実行に移すには至らなかった

そしてもうひとつ大きな理由が来ました。

③ハリケーンの被害に見舞われる

2010年12月 セントルシアではハリケーンが30時間も停滞し大惨事となり、被害の規模は自力での復興が不可能な程でした。(残念ながら国際社会の理解も支援も全く足りません)

- ・ダムの決壊による洪水
- ・主要輸出品であるバナナ栽培が壊滅
- ・建物の倒壊、道路の陥没
- ・観光シーズンに入る直前でこちらも大きな痛手

被害は金額にして40億円を超えるほどだとのこと。(人口16万人の国には大変な額です。)



セントルシアでは本当に大変な状況で政府も頭をかかえていました。そこで、改めて『国が困難な状況にあるからこそ、より悲惨な立場のハイチの人々を支援するプロジェクトを行うことが、自分の国を救うことにもなる』

とこのプロジェクトを提案しました。

主張したのは次のようなことです。

○同じように苦しい立場になったからこそハイチの人々をより勇気付けられる

○この活動をする事でセントルシアの現状も国際社会に広く伝わる

○セントルシアの有望な青年たちを派遣すればボランティアを通して教育され、将来国を担う人材が育つ

このプロジェクトを行えば、大地震の犠牲者を慰霊し、希望の見えない状況にあるだろう被災者を勇気付け、復興の足がかりを作ることが出来ると考えています。



## 現時点でのプロジェクトの進行状況

2010年12月7日～12日

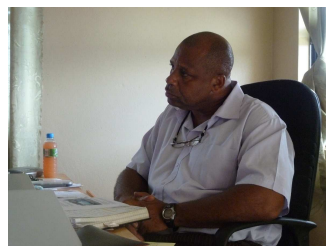
現地の被害状況を確認に訪れたセントルシアでこのプロジェクトの提案を行う。



厚生大臣  
モンディジア氏



観光省事務次官  
プレビル氏



農林大臣  
ジョセフ氏



ポリウス氏らとの  
打ち合わせ

8日 厚生大臣キース・モンディジア氏  
ハイチ支援、水のプロジェクトについて話をする

観光省事務次官タイタス・プレビル氏  
1月に首相に提案したプラン（ハイチ支援）も含めて再度提案し  
大臣に報告して下さることを約束

9日 マザー・テレサの映画上映会（アンセラレイにて）  
青年たちにハイチ支援への協力を呼びかける  
Boys, be ambitious in Christ!  
（志を持つことで将来が変わると訴える）

10日 農林大臣エゼキエル・ジョセフ氏  
ハリケーンによる被害の状況を確認するとともにハイチ支援のプランを伝える  
副首相スパイダー・モントット氏  
プロジェクトの責任者を担当するよう首相から要請されたことを確認

音楽センター講師ポリウス氏（昨年のジャズフェスティバルに参加）  
現地のボランティアの青年リーダーとともに打ち合わせ

現在OECS（東カリブ海諸国機構）に計画を  
提案中とのことです。セントルシア政府がどこ  
まで活動してくれるかが重要ですが、出来る限  
り後押しをしていきます。



左から  
当団体理事長 阪井  
現地のリーダー レミ氏  
副首相 モントット氏

皆様からの暖かい応援をお願い致します。

⇒

郵便振替 口座番号 00880-3-55649号  
加入者名 特定非営利活動法人ライフフォーラムジャパン

事務局 〒465-0084 名古屋市名東区西里町1-14 西里パークマンション103号  
電話 052-705-1553 FAX 052-705-1554  
ホームページ <http://www5e.biglobe.ne.jp/~lfj/>  
E-mail [lifeforum@mte.biglobe.ne.jp](mailto:lifeforum@mte.biglobe.ne.jp)

NPO法人ライフフォーラムジャパン

## Life Forum Japan セントルシア支援活動の経緯

- 2007年 8月 ボランティア団体セントルシアフレンズのお誘いを受け理事長がはじめてセントルシアを訪問
- ・ハリケーン被災地支援
  - ・孤児院訪問 (①)
  - ・マザー・テレサ映画上映会 (②)
- 12月 教育プログラム サッカー振興などを支援
- ・キング首相(当時)と面会
- 2008年 12月 青少年健全育成のためのセミナー開催 (③)  
(セントルシアフレンズに協力して)
- 2009年 4月 犯罪防止会議F.A.I.T.H (法務省傘下の現地NGO) に協力してスポーツ指導者に人格教育の方法を学んでもらうセミナーを開催 (④)
- 2010年 1月 ハイチ支援の提案
- ・応援歌を作成する
- 12月 ハリケーンの支援とハイチ支援の再提案



### セントルシア発展のために必要な活動は？

#### ①国を導くリーダーの育成

貧しい国に共通の問題として優秀な人材ほど海外に出て行ってしまうということがあります。国の発展のために尽くすリーダーになるような人材育成は重要です。

#### ②家庭倫理の教育

この国の抱える大きな問題として、母子家庭が全体のなんと85%を占めているということがあります。これはキリスト教(カトリック)の信仰が厚い国であることが影響しています。独身であることが尊重されるので、子供がいても結婚しないという悪い伝統が出来てしまっているのです。子供たちの将来を守るためにも改善が必要です。

#### ③産業の育成

セントルシアにはこれといった特産品がありません。バナナを輸出していますが、それも今回のハリケーンで壊滅的な打撃を受けました。外貨収入を観光に頼っている現状なので、国内の産業を育てる必要を感じています。

(養殖業などを候補として考えています。)